

はしか（麻疹）の感染事例が報告されています。

最近、海外から帰国して、はしか（麻疹）を発症した人をきっかけにして、集団感染が発生しています。現在、日本は2015年3月27日に世界保健機関（WHO）によってはしか（麻疹）の排除状態であると認定されています。

しかし、今年は、新型コロナウイルス感染症が5類に変更になってから、海外渡航する人や、外国人旅行者が増加しました。それによって、海外からはしか（麻疹）のウイルスが国内に持ち込まれる場合もあり、今まではしか（麻疹）にかかったことがない方や、ワクチン接種していない方は、免疫がないために感染する可能性があり、注意が必要です。厚生労働省からも注意喚起がなされています。



はしか（麻疹）って？

「はしか」の語源には、「芒（はしか・のぎ）」だとする説があります。「芒（はしか・のぎ）」とは、稲や麦などイネ科植物の穂の先に針のようにとがった堅い毛のことで、これに触ったら痛がゆくなることから、「はしか」と呼ばれるようになったといわれています。「芒（はしか・のぎ）」を形容詞として言い換えた「はしかい」という言葉があり、「ちくちくと痛がゆい」「こそばい」といった意味で使われています。そういったことから、はしかの語源は「芒（はしか・のぎ）」と考えられるとのことです。（豆知識）

はしか（麻疹）は、昔、かかって一人前といわれるほど一般的であり、度々流行を繰り返しました。

死亡率も高かったので「疱瘡(天然痘)は器量定め、はしか（麻疹）は命定め」といわれていました。

はしか（麻疹）は、麻疹ウイルスに感染することによって引き起こされる急性の全身感染症です。感染力は極めて強く、免疫を持っていない場合、インフルエンザ発症者1人が、1～2人にうつすのに対して、はしか（麻疹）発症者1人は、12～14人にうつしてしまう（6～7倍）ほどで、免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症します。また、確立した治療法がありません。

ただし、一度感染すると一生免疫が持続するともいわれています。

発症した人が周囲に感染させる期間は、症状が出る1日前（発疹が出るの3～5日前）から発疹が出た後4～5日目くらいまで続きます。

症状は？

はしか（麻疹）に感染すると10日ほどの症状の出ない期間（潜伏期間）を経て、発熱や咳、鼻水といったかぜのような症状が現れます。2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。また、特徴的な症状として、発疹が出る1～2日前に頬っぺたの内側に白い斑点（コプリック斑）が見られます。（数日で消える）

肺炎や中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎が発症すると言われています。



写真1 コプリック斑

死亡する割合も、先進国であっても 1,000 人に 1 人と言われています。

その他の合併症として、10 万人に 1 人程度と頻度は高くはないものの、麻疹ウイルスに感染後、特に学童期に亜急性硬化性全脳炎（SSPE）と呼ばれる中枢神経疾患を発症することもあります。

また、妊婦さんが感染すると、重症化しやすいといわれていて、流産や早産しやすいともいわれています。



写真2 麻疹の写真

学校における麻疹対策ガイドラインより

どういう人が感染するの？

今までに、はしか（麻疹）にかかったことのない方、はしか（麻疹）ワクチンを接種したことの無い方が抗体を持っていないため、要注意ということになります。また、接種したとしても 1 回だけの方は、十分な抗体ができていない場合がありますので、感染する可能性があります。

予防する方法は？

手洗い、マスクと言いたいところですが、これだけでは、はしか（麻疹）を予防することはできません。唯一と言っていい予防方法が、ワクチンということになります。

ワクチンを接種したか、はしか（麻疹）にかかったことがあるかは母子手帳で確認できますので確認してみてください。また、確認ができない場合は、抗体検査も有効な確認方法です。

はしか（麻疹）のワクチンってどういうの？

まず、ウイルスについて整理してみます。

新型コロナウイルスは、突然変異で生まれた株（例えばオミクロン株）が生まれてくるたびに、感染者が増加しました。そのため、それに合わせた新型コロナウイルスワクチンを接種することで、感染者数を抑えたり、重症化を抑えたりする必要性がありました。

それに対して、麻疹ウイルスは、24 種類のウイルス型がありますが、全ての種類に対する抗体が同じ（単一血清型）なので、ワクチンの種類を変えたりする必要性がありません。ですので、数十年前に受けた予防接種でも十分効果があります。

また、一度感染した場合も同様に、体にできた抗体は、いまでもはしか（麻疹）を予防してくれます。

（まれにはありますが、免疫の働きが十分ではない場合には、ワクチン接種した場合や、以前感染したことがある場合でも感染する場合があります。）

続いて、ワクチンについて整理してみます。

はしか（麻疹）ワクチン（主に接種されているのは、麻疹風疹混合ワクチン（MRワクチン））を接種することによって、95%程度の方が麻疹ウイルスに対する免疫ができると言われています。

しかし、1 回の接種だけでは、十分な免疫ができない人がいます。そのため、2 回目の接種を受ける必要があります。2 回目の接種で、1 回の接種では十分な免疫ができなかった人の多くに十分な免疫ができることになります。

ちょっと待って、はしか（麻疹）を予防したいだけなのに、風疹も入っているワクチンを接種しても

大丈夫なのか？と思うかもしれませんが、健康への影響に問題はありません。むしろ風しん予防にもつながる利点があります。

ワクチンの定期接種のタイミングは、「1歳になったら1回、小学校入学前の1年間にもう1回」です。また、生まれ年によって、ワクチンの接種回数に違いがあります。下の表は、接種歴の目安となります。

生年月日	はしか（麻しん）のワクチン接種歴の目安
1972(昭和47)年9月30日以前 生まれの方	ワクチンを接種していない可能性が高いです。感染歴がある人以外は、2回のワクチン接種を推奨します。(多くの人は感染済み)
1972(昭和47)年10月1日～ 1990 (平成2)年4月1日生まれの方	ワクチンの定期接種を1回だけ接種していて、免疫が十分ではない可能性が高いです。2回目の接種歴がなければ、追加接種を推奨します。
1990(平成2)年4月2日～ 2000 (平成12)年4月1日生まれの方	ワクチンの定期接種を1回だけ接種している可能性が高いです。2回目の接種歴がなければ、追加接種を推奨します。
2000(平成12)年4月2日以降 生まれの方	定期接種として2回接種を受けている可能性が高いです。ただし、2回の接種歴がなければ、追加接種を推奨します。

では、子供のころワクチンを接種していない、または、1回しか接種していない人で、はしか（麻しん）にかかったことがない人はどうしたらいいの？ということになりますよね。

そういう場合は、1回しか接種していないという人は、あと1回受けていただく必要があります。1回も接種していないという人は、1回目の接種した後、4週間あけて2回目の接種していただく必要があります。

いずれにしても定期接種ではなく、任意接種となりますので自費で受けていただくこととなります。

特に、妊婦さんのご家族、医療関係者、学校関係者、海外へ行く予定の人は、ワクチン接種のご検討を。

ただし、妊婦さんは、このワクチンを接種することはできません。妊婦さんは、十分とはいえませんが、人ごみを避ける、手洗い、うがい、マスクをするなどの予防に気を付けてください。

妊娠されていない女性は、接種した後2か月程度の避妊が必要になります。

副反応は、発熱、発疹、鼻汁、咳、注射したところの赤み・はれなどがみられます。重大な副反応として、アナフィラキシー、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）、脳炎・脳症、けいれん、血小板減少性紫斑病がごく稀に（0.1%未満）報告されていますが、ワクチンとの因果関係が明らかでない場合も含まれています。

学校は休むの？

解熱した後3日を経過するまで出席停止となります。ただし、病状により学校医その他の医師の判断で、感染の恐れがないと認められたときは、この限りでないとされています。

また、患者と同居している人、かかっている疑いのある人、かかる恐れのある人、はしか（麻しん）が発生している地域から通学している、はしか（麻しん）の流行している地域に旅行した人は学校医その他の医師の指示により、出席停止となる期間があります。

(参考)厚生労働省 麻しんについて

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekka-kansenshou/measles/index.html

国立感染症研究所 麻疹とは <https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/518-measles.html>